

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 086	提案機関名 神奈川県山林種苗協同組合
要望問題名 スギ・ヒノキ穿孔性害虫被害の実態について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 スギ・ヒノキの穿孔性害虫被害については、平成25年に報告がされているが、その後の状況については特段の調査がされていないようである。 被害木は、今後とも回復する見込みはなく、伐採して健全な森林に回復する必要があります。スギノアカネトラカミキリ被害林の多くは伐期を迎え、搬出可能な材の蓄積があっても、被害林であるため収穫意欲が停滞し、森林が有する水源涵養機能などの様々な働きの低下が懸念されます。 県内森林のほとんどのスギ・ヒノキ林に被害が及んでいるようですが、最新の被害状況について試験伐採による林分ごとの被害実態、伐採された林分があれば、その被害状況、また、伐採木の価格についても調査を要望します。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) スギ・ヒノキ穿孔性害虫被害材の利用技術に関する研究 (H20～24)			
対応の内容等 県西部を中心としたスギアカネトラカミキリによるスギ・ヒノキの穿孔性害虫被害については、県の重要な森林政策上の課題として認識しており、H20-24に実施した「スギ・ヒノキ穿孔性害虫被害材の利用技術に関する研究」課題によって被害が問題になるのは一部地域であり、被害地域が拡大傾向にないこと、低質材も含めた被害材の利用対策についてもとりまとめられています。こうした結果にもとづき、県の水源環境保全・再生施策の1つとして森林資源の有効活用で県産木材の搬出促進策が行われており、これら施策、事業の実施の中で必要であれば調査指導対応を行います。			
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			